

NIWSは仮想化された自己管理のオートノミック評価センターでビジネスの敏捷性を高めます。

概要

■ チャレンジ

お客様毎の評価環境を構築するのに必要な時間とリソースを減らすことで経費を抑え、売上を伸ばす

■ オンデマンド・ビジネスを実現しなければならない理由

プロセスを単純化、自動化して、運用経費を抑えつつ、お客様のニーズやマーケット・チャンスに対するレスポンスを向上させる

■ ソリューション

仮想化された自己管理型のオートノミック・インフラストラクチャーによりプロセスを合理化、標準化して、リソースをオンデマンドかつ動的にプロビジョニングする

■ 効果

構築時間の短縮。サービス提供の精度と一貫性の向上。スタッフの生産性向上による経費の削減。ビジネス柔軟性の強化

オンデマンド・ビジネスとは

ビジネス・プロセスが全社および主要パートナーやサプライヤー、さらに顧客までエンド・ツー・エンドで統合されており、お客様の要求や新たな市場機会、外部の脅威に対して柔軟かつ迅速に対応できる企業



システムインテグレーター、ITプロバイダーのNIWSは評価センターの効率化モデル作成支援をIBMに依頼しました。

2,000年以上前、古代ローマ帝国は壮大な水道網を構築して、清潔な水が簡単に利用できるようにしたといわれています。帝国に前例の無い繁栄をもたらし、新たなサービスを創出したのです。

システムインテグレーター、ITプロバイダー大手のニイウス株式会社(NIWS)はこの古代のやり方を現在のビジネス上のチャレンジに対する強力なモデルとしています。「わたしたちは自社のビジネス戦略を『ローマ水道局ビジネス』と呼んでいます」とニイウス株式会社 執行役員 外處理氏は語っています。

「自己管理のオートノミック・ソリューションとグリッド・コンピューティングを当社のコンピテンシー・センターに適用することで、効率を向上し、競合優位を維持して、顧客満足度を高く保つことができます」

ニイウス株式会社 執行役員
外處理氏

On Demand Business Benefits

- ・複雑なタスクの自動化による、構成／運用経費削減と導入のリード・タイム軽減
- ・ベスト・プラクティス基準のプロセスの標準化による、スキル・レベルに依存しない一貫性と品質
- ・変更の動的検出とその調整による、リソース利用率改善とレスポンス向上
- ・ITリソースの仮想化によるTCO低減

「Tivoli OrchestrationとProvisioningソリューションは、時間のかかるさまざまなタスクからエンジニアを解放し、プロセスの標準化に役立ちました」

外 處 理 氏

お客様向けに先進のテクノロジー・インフラストラクチャーを作り上げることで、NIWSはお客様のサービス提供における革新と効率向上を支援します。しかしながら、主要なお客様である大手金融機関が必要とするきわめて複雑なインフラストラクチャーを構築するにあたり、NIWSは実業務に耐えられるソリューションを保証する必要がありました。

しかし、会社の拡大につれて、NIWSの経営チームは、既存のプロセスのままでは、テスト目的の評価環境をすばやく、コストパフォーマンスよく構築することが難しくなっていくことに気づいていました。同社はそれぞれのお客様の要件に合わせて、異なるベンダーのさまざまなテクノロジーにまたがるソリューションを構築、管理しなければなりません。一社のお客様向けの評価環境をつくるだけでスキルの高いシステム・エンジニアが四人がかりで一か月近くかかります。NIWSの経営チームは構築一回当たりの経費を400万円(3万4千ドル)と見積りました。毎月の構築支援はかなりの件数になるため、合計額は多額になります。

さらに、同社のエンジニアの稼働率は限界に達しており、NIWSの営業担当はサポートについてサービス提供チームとたびたび交渉を行う必要がありました。NIWSの経営チームは、プロセスを合理化できなければ、エンジニアをさらに雇うか、提供までの期間が延びることを把握していました。

「可能なかぎり迅速に高品質のサービスを提供しなければなりません」と外處氏はいます。「業務プロセスを変えなければ、人員不足と経費の増加で大きなリスクに直面していたでしょう」

複雑さを軽減し、競合優位を推進

こうした状況に対応するために、NIWSの経営チームは以下の課題を設定しました。

- ・評価環境を準備するためのリード・タイムと品質を均質化
- ・エンジニアのスキル・レベルに左右されずに安定したサービスを提供
- ・異機種混在環境でのアプリケーション・テストとテクノロジー評価にかかる時間と経費の最小化

このためにはシステム構成プロセスを標準化し、業務要件に対して自動的に調整を行う、仮想化された自己管理型のオートノミック・インフラストラクチャーが必要でした。外處氏によると、この方法によって、サービス提供が早まり各エンジニアのレベルに関係なくシステム設計、チューニング、管理の一貫性が保証されました。同社はコンピューティング・リソースをプールすることによりTCOを減らし、負荷の変動に柔軟に対応できるようにもなりました。

「自己管理のオートノミック・ソリューションとグリッド・コンピューティングを当社のコンピテンシー・センターに適用することで、効率を向上し、競合優位性を維持して、顧客満足度を高く保つことができます」と外處氏はいます。

IBMと卓越した評価センターを構築

複数のテクノロジーやアーキテクチャー手法を調査して、NIWSはソリューション・プロバイダーにIBMを選びました。「当社のインフラストラクチャーを自己管理型のオートノミックな環境にするためのスキル、ノウハウ、製品をIBMは持っていました」と外處氏は語ります。

IBMとの協業により、NIWSはテスト環境を構成、管理する時間と経費の削減に成功しました。IBM IT サービス・マネジメント・ソリューションを利用したサーバーの導入と構成を例にとりましょう。IBM Tivoli Intelligent Orchestrator、IBM Tivoli Provisioning Manager、IBM Tivoli Configuration Manager、IBM Remote Deployment Manager、IBM Network Installation Managementソフトウェアが、IBM @server System xとSystem pサーバーにまたがるソリューション全体をプロビジョニングし、構成し、展開するのに必要な手順の自動化を支援しました。

さらにリソースと変動するリソース要求を人の手が介在することなく動的にマッチングすることもできます。例えば、Tivoli Intelligent Orchestratorが需要の変化をとらえて、さらにはリソースのニーズを予測すると、Tivoli Provisioning Managerに必要なリソースを自動的にプロビジョニングするよう指示します。「Tivoli OrchestrationとProvisioningソリューションは時間のかかるさまざまなタスクからエンジニアを解放して、プロセスの標準化に役立ちました」と外處氏は言います。

同様に、IBM TotalStorage SAN Volume Controller、IBM TotalStorage SAN File System、IBM TotalStorage Productivity Center for Fabric、IBM TotalStorage Productivity Center for Dataソフトウェアを含んだIBM TotalStorageソリューションがNIWSのストレージ経費の管理を容易にし、複雑さを減らしました。例えば、同社では現在異機種が混在したストレージ・リソースをボリューム・レベル、ファイル・レベルの両方でプールすることで、利用率を最適化できました。また、スタッフはアプリケーションを壊すことなくストレージ・リソースを変更できます。パフォーマンスと可用性の問題をすばやく突き止めることも可能です。ストレージ・デバイスが足りないこと、さらにはファイル・システムの不足さえもオートノミックに検出し、必要に応じて追加します。

外處氏はこう語っています。「IBMのソリューションはエンジニアの負荷を劇的に減らし、根底のテクノロジーにまで必要以上に深く理解する必要をなくしました」

新しい評価センターの構築にあたって、NIWSはRed Hat Linuxを動作させるIBM BladeCenterサーバーにも投資を行いました。これにより、NIWSは単一サーバー内でさまざまなお客様のプロセスを実行できるようになったのです。これはスペースの節約、さらには経費削減にもつながりました。

Key Components

ソフトウェア

- IBM Autonomic Computing Toolkit
- IBM Network Installation Management
- IBM Remote Deployment Manager
- IBM Self-Managing Autonomic Technology™
- IBM Tivoli® Configuration Manager
- IBM Tivoli Intelligent Orchestrator
- IBM Tivoli Provisioning Manager
- IBM TotalStorage® Productivity Center for Data
- IBM TotalStorage Productivity Center for Fabric
- IBM TotalStorage SAN File System
- IBM TotalStorage SAN Volume Controller

サーバー

- Red Hat Linux® の動作する IBM BladeCenter®
- IBM@server® system x®
- IBM System p™

「IBMテクノロジーに基づいた当社の新Grid / Autonomic Computing Centerによって、当社の先進的な提案のショーケースができましたし、お客様も自社の新しいソリューションのパフォーマンス・テストと機能テストをすぐに行えるようになりました。これは当社がビジネス目標を満たし、サービス提案を拡大していくために欠かせないものです」

外處 理 氏

Linuxの利用によって、NIWSのTivoliソフトウェアを選択する理由が非常に重要になりました。TivoliソフトウェアはLinux環境を包括的にサポートしているため、NIWSは管理プロセスを単純化しながら、このスケラブルで高パフォーマンスのオペレーティング・システムの利益を享受できました。

NIWSはIBM Autonomic Computing Toolkitも利用し、共通ログ・フォーマット(CBE)の採用により異機種混在のサーバーや仮想ストレージ環境のイベントを統合できるようになり、これにより、根本原因分析が合理化でき、問題判断プロセスが大幅に改善されました。さらに、ITIL® ベスト・プラクティスの実装もサポートされました。

「IBMの自己管理型オートノミック・テクノロジー・ソリューションを利用して、ITILをベースとしたシステム管理を実装しました」と外處氏は語ります。「ITILのベスト・プラクティスを厳格に守れば、サービス品質が保証できるのです」

ビジネス・チャンスを押し進めるプロセスの改善

外處氏によると、NIWSは投資をすぐに回収しました。それぞれのIBMソリューションは三ヶ月で実装でき、わずか四ヶ月で最初の成果をあげました。

現在、NIWS Grid/Autonomic Computing Centerと呼ばれる新評価センターは同社の効率的なモデルの象徴となっています。NIWSは新評価環境導入のリード・タイムを短縮しました。さらに、インフラストラクチャーの構成はスキル・レベルに関係なく全てのエンジニアで対応可能になりました。結果として、同社は、スタッフの増員や研修なしに、お客様の要件に対応できるようになりました。スタッフの生産性も向上した結果、コスト削減もなし

もなし得たのです。

最終的には顧客満足度を向上させ、変化に対する適応力を強化しました。結果があまりにもはっきりと現れたため、NIWSのお客様も自社のインフラストラクチャーに同じテクノロジーを使うことに興味を示しています。

NIWSは、お客様のご要望に合わせた最先端のオンデマンド・ビジネス環境を柔軟かつ迅速に評価可能な新センターを構築することにより、サービスおよびビジネス・プロセスのイノベーションを実現させております。

詳細情報

お近くのIBM担当またはIBMビジネス・パートナーにご連絡ください。

IBM Self-Managing Autonomic Technologyの詳細情報については ibm.com/autonomic/jp をご覧ください。

IBM Tivoliソフトウェアの詳細情報については ibm.com/jp/software/tivoli をご覧ください。

NIWSの詳細情報については www.niws.co.jp/ をご覧ください。



© Copyright IBM Corporation 2006

IBM Corporation
Software Group
Route 100
Somers, NY 10589
U.S.A.

Produced in the United States of America
05-06
All Rights Reserved

BladeCenter、eServer、IBM、IBMロゴ、IBM Self-Managing Autonomic Technology、On Demand Business、System p、Tivoli、TotalStorage、System xはInternational Business Machines Corporationのアメリカ合衆国その他の国における商標です。

LinuxはLinus Torvaldsのアメリカ合衆国その他の国における登録商標です。

ITIL(IT Infrastructure Library)は、英国及び欧州連合各国における英国政府OGC(Office of Government Commerce)の登録商標です。

その他の会社名、製品名、サービス名は各社の商標、サービス・マークです。

掲載されている製品、サービスはIBMがビジネスを行っているすべての国、地域でご提供可能なわけではありません。また国・地域によってはご提供条件が異なる場合がございます。詳細は各国IBMにお問い合わせください。

このケース・スタディは顧客がIBM製品を利用したひとつの例です。同等の結果が保証されているわけではありません。